島の暮らしを支えるドローン運航会社を共同設立

「奄美アイランドドローン」就航

離島の魅力と社会課題

透き通る海と亜熱帯の深い森、一年中温暖な気候が魅力の鹿児島県大島郡瀬戸内町は、奄美大島の南側と、さらに南に位置する加計呂麻島、請島、与路島などの島々で構成されています。マリンレジャースポットとして知られる他、黒糖焼酎・油ぞうめんといった美味でも有名です。

与路島・請島・加計呂麻島への交通手段は、奄美大島からの船。しかし高波や台風などで出港できないことも多く、安定した物流や、さらに自然災害時の対応にも課題を抱えていました。

２０２０年、「誰もが住み続けたい」サステナブルなまちづくりを目指す瀬戸内町と、空のプロフェッショナルとして安全・安心な総合エアモビリティ・オペレーションを標榜するＪＡＬグループは、ドローンやデジタル技術を活用した離島課題の解決を目指し、連携協定を締結しました。

２０２３年には、瀬戸内町の声掛けによりドローン運航事業会社「奄美アイランドドローン（ＡＩＤ）」を設立。ＪＡＬは共同出資の他、ドローンの運航管理や安全管理などのノウハウを提供しながら、ＡＩＤの業務を応援します。

ドローンで課題を解決

記念すべき第1便は、今年2月29日に飛び立ちました。折しも定期船が出港できない高波の中、奄美アイランドドローンが運航する「FAZER R G2」は、奄美大島の古仁屋から、約18km離れた与路島へ、医薬品・新聞・給食食材などを32分で配送完了しました。

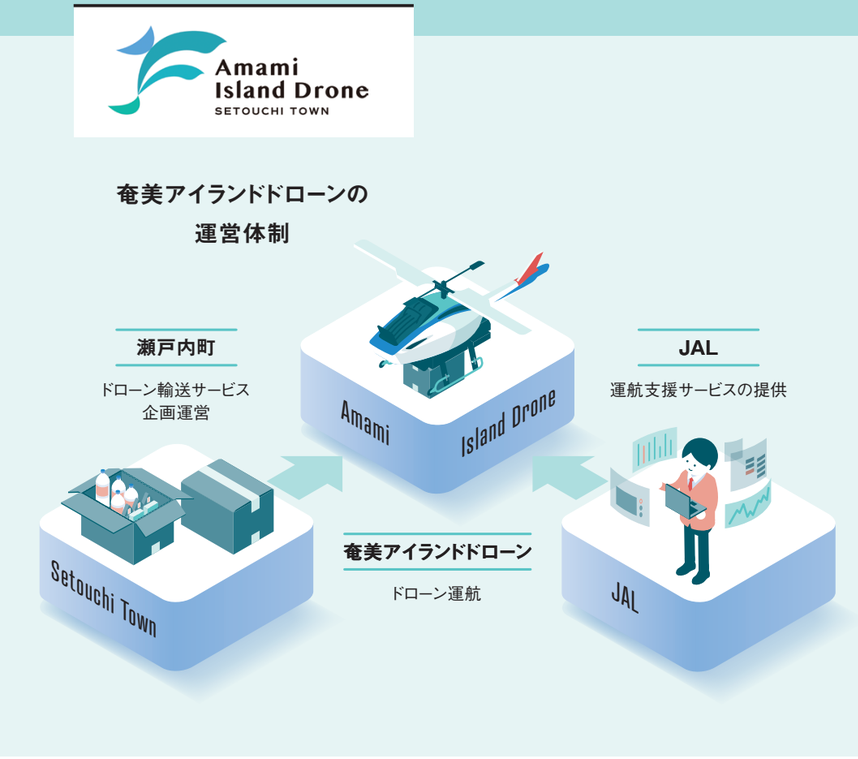
「これまで与路島には定期的に医師が来島して診療し、翌日薬局が船を貸し切って医薬品を配送していました。それをドローンが運んでくれる。画期的です」（与路集落・信島豊武区長）

「地域住民へのサービス向上につながる、皆さまに愛されるドローンになってほしいです」（瀬戸内町・鎌田愛人町長）

「瀬戸内町とは3年かけて丁寧に検討や実証実験を重ねてきました。この就航が、防災や生活物流といった離島の課題をエアモビリティで解決する社会実装モデルとなれば嬉しいです」（ＪＡＬエアモビリティ創造部・宮前和弥）

2

3



瀬戸内町

医薬品や日用品の
定期輸送
（および救援物資輸送）

災害時に救援物資輸送
（例）久慈、西阿室

JAL
Next-Generation
AIR MOBILITY

離島の暮らしを支えるＡＩＤへ

奄美アイランドドローンには2通りの就航パターンがあります。平時は奄美大島から与路島・請島へ医薬品や日用品を定期輸送。災害時はこの2島に加え、加計呂麻島や奄美大島など、町内他地域へも救援物資の輸送に即応します。

「大型物流ドローンを使った離島での〝災害／平時〟活用事業は業界初です。また航空会社が地方自治体と共にドローン運航事業会社を設立するのも日本初のこと。第1便はＪＡＬからの出向者が東京で遠隔操縦を行いましたが、瀬戸内町の地元人財による操縦者も現在養成中です。また瀬戸内町の小中高校でも、ドローンの体験学習を行っています。ＡＩＤが真に地域に根差した運航会社となるため、ＪＡＬは空のノウハウを惜しみなく提供しながら、事業を支援していきます。今後奄美群島全体へ事業拡大を目指すＡＩＤを、ＪＡＬは〝黒子〟としてサポートしていきます」（宮前）

ＪＡＬグループはこれからも、移動を通じて豊かなつながりを作り、地域社会を幸せにするＥＳＧ経営の下、地域の活性化や、持続可能なまちづくりに貢献してまいります。Ⓢ

4

5

6

1.ヤマハ発動機のFAZER R G2は航続距離・積載重量に優れる。2.東京から遠隔操縦。3.貨物の搭載。到着地では自動切り離し。4.島で重ねた実証実験。5.AIDのスタッフメンバー。6.AID、瀬戸内町、JALの就航記者会見。

『Challenge JAL』などJALグループのさまざまな取り組みは、右記JAL Webサイトでご覧いただけます。

www.jal.com/ja/